



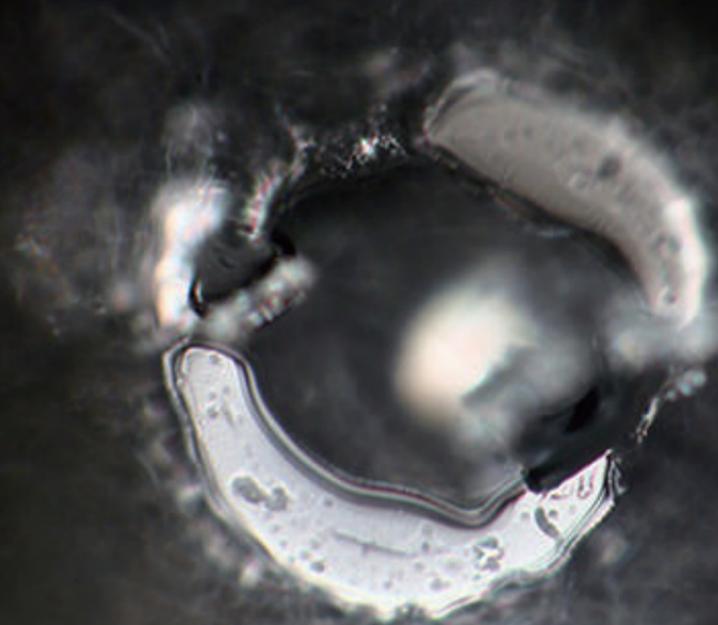
パイウォーター浄水器・アクアパイ251の結晶

### パイウォーター浄水器を大解剖

## 結晶の形は何を物語るのか。

結晶写真撮影技術によって観察されるパイウォーター浄水器の水とは。2018年に続き、2024年にも新たに結晶写真の撮影を依頼。その結果をご報告します。

水道水の結晶(採水地/愛知県西尾市)



# 「水の結晶」から見る パイウォーター浄水器の水。

水を氷結させ、その結晶を観察してみると、自然に近い水ほど結晶が美しい六角形になる……。水の結晶の研究を手がける合同会社OFFICE MASARU EMOTOさんに、パイウォーター浄水器・アクアパイ251の水の結晶分析を新たに依頼。以下は、その分析結果の要約です。

氷結条件：最低冷却温度-25度 観察温度：5度±2度  
観察機器：オリンパス金属光学顕微鏡(倍率×200)  
検体個数：試料水を50シャーレに滴下水結させた(撮影日)2024年10月

結晶写真撮影技術によって観察される結晶の形は、凍結前の液体の水に、どのような物質が溶けていたのかという物質レベルの違いのみならず、どのような情報やエネルギーが含まれていたのかということをも反映しているのではないかと私たちは考えています。

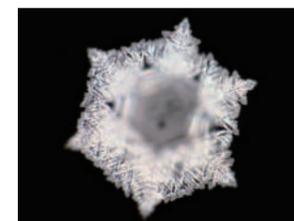
各地の水道水を観察してみると、大都会においては綺麗な結晶構造はほとんど観察されませんが、自然環境が残っている地域では比較的六角形に近い整った形の結晶を観察することができます。また名水百選などにも選ばれている湧水を調べてみると、とても美しい宝石のような姿の結晶を観察することができますが、汚染された川の水などの場合には、崩れた形のものしか観察されません。

これらの結果から、自然と調和した情報やエネルギーを有している水の場合には、六角形の形をした美しい結晶が観察されますが、塩素殺菌された水道水のように、自然と調和していない破壊的な情報を有した水の場合には、美しい結晶が観察されないのではないかと、私たちは考えています。本来、水は自然と調和する性質を持っています。調

和していない水というのは、「人間が汚染した水」ということに他なりません。水が自然と調和していないのではなく、人間が自然と調和していないということなのではないでしょうか。

今回、2018年に引き続き、新たにパイウォーター浄水器の水の結晶写真を撮影しました。前回に比べて、より繊細な結晶になった印象を受けます。より自然に近い形になったということではないでしょうか。また、六角形が崩れることなく保持されており、「力強さ」も感じます。六角形は、エネルギーを保つのに一番理想の形だと言われており、ハニカム構造で知られるハチの巣なども六角形です。この美しい六角形の結晶を持つパイウォーター浄水器の水は、塩素などが除去されたのみならず、繊細で、力強く、積極的に自然と調和した情報やエネルギーが、水に刻印されたのではないかと考えることができます。

(江本さん・勝亦さん/談)



左は、前回2018年に撮影されたパイウォーター浄水器の水の結晶。今回撮影された結晶は、より繊細で、さらに力強い六角形



合同会社 OFFICE MASARU EMOTO  
株式会社アイ・エイチ・エム  
代表取締役社長  
(左) 江本博正 さん  
結晶班・研究所スタッフ  
(右) 勝亦 健 さん

※結晶写真の撮影依頼につきましては、以下のサイトをご覧ください。  
<https://masaru-emoto.net>